

## 前期 サンプル

## 平成30年度 前期選抜の選抜・評価方法

学校番号

千葉県立

高等学校 全日制の課程

科

## 1 期待する生徒像

人物に優れ、本校を強く志望し、その志望理由が適切であり、本校の教育方針に適する資質及び能力を有し、次のいずれかに該当する生徒

ア 部活動等で優れた素質又は優秀な実績を持ち学習成績が優れ、入学後も引き続き学習との両立をはかりながら活動する意志を有する生徒

イ 特別活動・課外活動・ボランティア等の各種活動で顕著な実績又は取組を行った者で学習成績が優れ、入学後も引き続き学習との両立をはかりながら、その経験と実績を生かして活動する意志を有する生徒

## 2 選抜資料

(1) 学力検査	5教科の学力検査の得点
(2) 調査書	中学校の校長から送付された調査書
(3) 面接	受検者5名程度・評価者3名の集団面接 検査時間：1グループ15分程度
(4) 自己表現	次のア、イのいずれかを、出願時に志願者が選択 ア 実技による自己表現 次の部活動実技のうち1つを選択 陸上競技(男女)・テニス(男女)・バドミントン(男女)・サッカー(男)・ ハンドボール(男女)・フェンシング(男女)・野球(男)・剣道(男女)・ バスケットボール(男女)・柔道(男)・バレーボール(女) 実施形態：個人またはグループで発表 検査時間：20分程度(種目により異なる) イ 文章による自己表現 実施形態：検査室で一斉に実施 字数：500字以上600字以内の自己表現 検査時間：60分

## 3 評価項目及び評価基準

## (1) 学力検査[500点満点]

評価項目	評価基準
ア 5教科の得点合計	5教科(各教科100点満点)の合計500点満点で評価する。
イ 個々の教科の得点	20点未満の教科がある場合は、審議の対象とする。

## (2) 調査書

アの数値に、イ、ウ、エ、オ及びカについて加点(上限80点)したものを調査書の得点とする。

評価項目	評価基準
ア 教科の学習の記録	算式1で求めた数値で評価する。 評定1または未評価の教科がある場合は、審議の対象とする。
イ 出欠の記録	各学年において皆勤である場合は、加点する。 各学年において欠席が15日以上ある場合は、審議の対象とする。
ウ 行動の記録	○の個数に応じて、3段階で加点する。 ○が一つもない場合は、審議の対象とする。
エ 特別活動の記録	学級活動・生徒会活動・学校行事において、特に積極的に取り組んだと認められる記載事項について、2段階で加点する。
オ 部活動の記録	実績の内容に応じて、3段階で加点する。
カ 特記事項	技能検定の資格に応じて、2段階で加点する。
キ 総合所見	記載内容に問題があると判断される場合は、審議の対象とする。

### (3) 面接 [45点満点]

3名の評価者が、次の3つの評価項目ごとに、各評価基準に基づき、a(優れている)・b(標準的である)・c(問題がある)の3段階で評価する。aを5点、bを3点、cを1点とし、3名の評価者の評価(各15点満点)を合計し、得点化する。評価cが3つ以上ある場合は、審議の対象とする。

評価項目	評価基準
ア 志願の動機	志願の動機が明確である。
イ 積極性	積極的に学習・部活動等に取り組んできた。
ウ 生活態度	日常・学校生活での規範意識を強く持っている。

### (4) 自己表現 [90点満点]

次のア、イについて、それぞれ2名の評価者が、3つの評価項目ごとに、各評価基準に基づき、a(優れている)・b(標準的である)・c(問題がある)の3段階で評価する。aを15点、bを8点、cを1点とし、2名の評価者の評価(各45点満点)を合計し、得点化する。評価cが3つ以上ある場合は、審議の対象とする。

#### ア 実技による自己表現

評価項目	評価基準
(ア)基礎的運動能力	基礎的運動能力を十分に身に付けている。
(イ)専門技術・能力	専門的な技術・能力を身に付けている。
(ウ)取り組む姿勢・意欲	部活動に対して真摯に取り組む姿勢・意欲が見られる。

#### イ 文章による自己表現

評価項目	評価基準
(ア)主題	提示されたテーマについて、的確な主題設定ができた。
(イ)内容	テーマと自分の関わり、きっかけや動機、自分が得たものについて具体的に書かれている。
(ウ)取り組む姿勢・意欲	今後の展望について考察し、意欲的に書かれている。

## 4 選抜方法

### (1) 選抜の方法

「学力検査の成績」、「調査書の得点」、「第2日の検査(面接・自己表現)の得点」を全て合計した「総得点」により順位をつけ、各選抜資料の評価等について慎重に審議しながら、予定人員までを入学許可候補者として内定する。

〈総得点の満点の内訳〉

学力検査の成績	調査書の得点		第2日の検査の得点		総得点
	評定(算式1)	加点	面接	自己表現	
500点	(135+ $\alpha$ -m)点	80点	45点	90点	(850+ $\alpha$ -m)点

(算式1)  $\alpha$ : 県が定める評定合計の標準値95

m: 当該志願者の在籍する中学校の第3学年(義務教育学校にあつては、後期課程の第3学年)の評定の全学年の合計値の平均値

### (2) その他

ア 自己申告書が提出された場合には、選抜の資料に加える。ただし、提出されたことにより、不利益な取扱いはしない。

イ 入学許可候補者に内定した者のうち、隣接県公立高等学校入学志願者取扱協定による内定者数が、細部協定書の示す制限比率を超えていないことを確認する。

## 5 その他

過年度卒業者については、第2日の検査終了後、別途個人面談を行う。

# 後期 サンプル

## 平成30年度 後期選抜の選抜・評価方法

学校番号

千葉県立

高等学校 全日制の課程

科

### 1 選抜資料

(1) 学力検査	5教科の学力検査の得点
(2) 調査書	中学校の校長から送付された調査書
(3) 面接	受検者5名程度・評価者3名の集団面接（1グループ15分程度）

### 2 評価項目及び評価基準

#### (1) 学力検査

評価項目	評価基準
5教科の得点合計	5教科（各教科100点満点）の合計500点満点で評価する。
個々の教科の得点	20点未満の教科がある場合は、審議の対象とする。

#### (2) 調査書

評価項目	評価基準
ア 教科の学習の記録	算式1で求めた値で評価する。 評定1または未評価の教科がある場合は、審議の対象とする。
イ 出欠の記録	各学年において欠席が15日以上ある場合は、審議の対象とする。
ウ 行動の記録	○が一つもない場合は、審議の対象とする。
エ 特別活動の記録、 部活動の記録、特記 事項、総合所見	記載内容に問題があると判断される場合は、審議の対象とする。

#### (3) 面接

3名の評価者が、次の3つの評価項目ごとに、各評価基準に基づき、a(優れている)・b(標準的である)・c(問題がある)の3段階で評価する。評価cが3つ以上ある場合は、審議の対象とする。

評価項目	評価基準
ア 志願の動機	志願の動機が明確である。
イ 積極性	積極的に学習・部活動等に取り組んできた。
ウ 生活態度	日常・学校生活での規範意識を強く持っている。

### 3 選抜方法

#### (1) 選抜の方法

平成30年度千葉県公立高等学校入学者選抜実施要項に従い判定する。

#### (2) その他

- ア 自己申告書が提出された場合には、選抜の資料に加える。ただし、提出されたことにより、不利益な取扱いをしない。
- イ 入学許可候補者のうち、隣接県公立高等学校入学志願者取扱協定による候補者数が、細部協定書の示す制限比率を超えていないことを確認する。

### 4 その他

過年度入学者については、検査終了後、別途個人面談を行う。